



今回は校長先生にメッセージを書かせていただきました。



一層の「しっとり感」を

昨年の1学期終業式で、松本工業高校野球部（夏の甲子園大会出場）などとともに京都市立堀川高校のことに触れました。覚えているでしょうか？その堀川高校の荒瀬校長先生が、学校のホームページ上に今年から毎週ブログを掲載しているのですが、先週の記事に次のように書いていました。

「この時期になるといつも思うのですが、三年生たちの表情がすてきです。一年生や二年生のときは異なる、まぶしさを包みこんだ落ち着いた表情。これからは備える意志と言えよいか、静かな決意と言えよいか、それぞれが確かな存在感をもって、そこにいます。」と。

昨年4月から教頭さんや事務長さんと一緒に、毎朝ロータリー前に立って挨拶をしています。皆さんの1年先輩（今年3月の卒業生）が2月に自宅研修に入って学校に来なくなり、久しぶりに登校して来る姿を見たときに、3年生になるとやはり違うなあ、というようなことを私も感じました。そんなことがあったからでしょうか、今年は今の時点ですでに3年生に対して、2月に感じたのと似たようなことを感じています。その感じを言葉で表すのは結構難しいのですが、しいて言えば「しっとり感」という表現が一番近いような気がしています。もちろん個人差がありますので、1・2年生の中にもすでにそういう雰囲気を持っている生徒はいますし、3年生の中にも「しっとり」とは少し遠い感じの生徒もいないことはありません。しかし、学年全体としては間違いなくそうですし、一人ひとりを見れば、明らかに昨年より今年の方が「しっとり」してきたと感じています。

「しっとり感」というのは、様々な要素が混じったものだと思いますが、私なりにその中身は何なのだろうかと考えてみました。

1つ目は、「落ち着き」だと思います。「しっとり」を辞書で引くと「うるおいや落ち着きがあつて物静かなようす」（旺文社国語辞典）とあります。ちゃかちゃか、ちゃらちゃらしてなくて、潤いのある感じ。「大人っぽさ」と言ったらいいのか、あるいは「人間の幅」と言うべきか。周囲の大人が見て、声をかけやすい雰囲気、同じ社会人の仲間として認識してもらえ要素が身に付いてきたということでしょう。

2つ目は、「自信」。自分に自信がないと、周囲に対して大きな声を出してみたり、しかめっ面をしてみたり、ふてくされた態度を取ってみたりと、「しっとり感」は出ません。「しっとり感」は、周囲に対して見栄や虚勢を張ることなく、素直に自分を表現している状態から生まれます。「しっとり感」は、傲慢さや攻撃性を伴った独りよがりの「自信」からではなく、謙虚さや包容力を持った穏やかな「自信」から生まれるものだと思います。

3つ目は、他者への「思いやり」や「やさしさ」、「視野の広さ」だと思います。周囲が見えていない人、公の場で自分たちのグループだけの世界に入ってしまう人からは「しっとり感」は出ません。「落ち着き」と「自信」を持って、常に周囲に気を配り、自分に関わる人々を大切にすることで「しっとり感」が生まれるように思います。

3年生は、卒業まであと4か月とちょっとになりました。

皆さんは様々な進路を選択し、高校卒業後は、様々な場所で、それぞれの方法で、自分の未来を切り拓いていきます。その可能性は無限であると言っても過言ではないと思いますが、これまでも皆さんに言ってきたように、皆さんの人生は、良くも悪くも最終的には自分自身が決めて歩む道であり、それ故、その責任を負うのはほかの誰でもない、皆さん自身です。

残りわずかの高校生活、一層の「しっとり感」と自分自身の判断・評価の尺度を持つように努め、充実した高校生活を送ってほしいと願っています。

《今後の予定》

- | | | | |
|-----------|--------------|--------|-------------|
| 10月27日（木） | LHR・総合 | 卒業アルバム | 個人・クラス・学年写真 |
| 31日（月） | 冬季私服期間開始 | | |
| 11月 2日（水） | ①②④③⑤⑥の順番で授業 | | |
| 7日（月） | 一斉委員会 | | |

